



酒造蔵を活用したまちの中核施設

2度の震災からも 商工会議所のアドバイスで 復活できました



かむろ
株式会社 醸室
代表取締役専務
佐々木 淳一さん

私は、寛政2（1790）年から200年以上続く造り酒屋「橋平酒造店」の8代目です。うちには、古くからの酒造蔵や家財蔵がありますが、増改築を重ねており、老朽化も激しい状態でした。

この酒造蔵の活用を考えていたときに中心市街地活性化法を利用して改修し、まちの拠点にする話が持ち上がりました。

古川市（現大崎市）が50%、古川商工会議所が5%出資し、残りを商工会議所に主導していただき民間からも出資を募って、第三セクターで株式会社醸室を平成14年に設立。17年に古い酒造蔵や家財蔵を改装して活用した「醸室」に10の飲食店などのテナントを入れてオープンしました。

ところが、ようやく軌道に乗った20年に岩手・宮城内陸地震があり、建物に被害が出て修復のために借金をしました。そこにリーマン・ショックが発生。テナントの撤退などで経営が厳しくなりました。経営立て直しのため、商工会議所の指導で経営改善計画を立て、さあ、これから実施するということと23年3月に、今度は東日本大震災に見舞われました。

酒造蔵の壁や屋根も崩れ、これから会社をどうしたらいいか、何も手をつけられず、ぼうぜんとなりました。復旧するにしても、さらに借金を重ねることもできず、一時は会社の解散も考えました。そんなときに商工会議所から、がれきの撤去に補助金を使えることを教えていただき、ひとすじの光が見えた気がしました。

さらに同年11月には、商工会議所がまとめた市内の中心市街地復興グループに加えていただき、復旧事業費の4分の3をグループ補助金でまかなうめどがつきました。しかし、4分の1を自己資金で用意しないとけません。そこで、商工会議所から市や市内の企業に増資を呼びかけていただきました。

昨年9月によりやく工事が完了し、再オープンできました。これからもまちの中核施設としてがんばります。

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ！

担当者からひと言



古川商工会議所（宮城県）
地域振興部長

はれさく
晴佐久 祐悦

「醸室」は、古い蔵を生かした古川の顔とも言える存在です。商工会議所では、会社設立の段階からさまざまな調整や申請書類の作成などのお手伝いをしてきました。資金面でも公的助成制度をフル活用できるよう支援してきました。

醸室は震災の際には、けが人が出なかったのが奇跡と言えるほど、大きな被害に遭いました。「商店街型」のグループ補助金を当所で取りまとめ、復興の手助けをさせていただきました。

今ではすっかり復活し、鳴子温泉への行き帰りのお客さんや、バスツアーのお客さんに立ち寄っていただけるようになりました。当所が地場産品として認定した「釜ちゃんブランド」のシヨップも多くのお客さままでにごわっています。